

特別名勝 虹の松原①

～潮風から人々を守る日本一美しい松原～

唐津湾の海岸沿いに幅400～700m、海岸線のゆるやかな弧状に約4.5kmの長さにわたって松原が続いている。鏡山からは眼下に展開するすばらしい虹の松原の景観が眺められる。この松原は400年前に唐津藩主寺沢志摩守が潮風や飛砂から農地を守るために植林した松原である。昔は「御松原（おんまつばら）」や、その長さ（約8km）から「二里の松原」と呼ばれていましたが、弧状の松原を空にかかる虹に例え「虹の松原」と呼ばれるようになった。

三大松原は 虹の松原（230ha）、三保の松原（静岡県、34ha）、気比の松原（福井県、32ha）と言われていますが、その中で虹の松原は最も美しく、そして強い潮風と闘っている松原である。

昭和30年に、虹の松原は白砂青松であり、若い松も老松も生育旺盛で、樹幹も枝も曲がりくねった松の風景であるという理由で、国内の松原で唯一特別名勝に指定された。虹の松原の白砂は流域が花崗岩地帯である玉島川から供給されている。

虹の松原は国有林で、風速を弱めて、背後の農耕地や住宅を保護する防風保安林、塩害や津波、高潮による被害を防ぐ潮害防備保安林、空気をきれいにし、騒音を防いで、生活環境を守り森林レクリエーションの場としての保健保安林として指定されている。

特に虹の松原と鏡山の間地帯は、虹の松原によって強い潮風から守られている。1973年からは、空中散布による松くい虫特別防除が行われるようになり、松くい虫被害は年々漸減し、健全な松原が維持されている。

虹の松原には「七不思議」があることでも有名である。85種類もの野鳥や、ハマヒルガオの群生があり、100種以上のキノコもあり、運が良ければ希少なキノコのショウロを観察することができる。



◎エピソード・伝承・うんちく など

■「寺沢志摩守の七本の松」の伝説

松原の中に殿様が気に入った松が七本あったそうである。どれかは言わないが、もしそれを切ったら死罪にするというおふれを出した。あるとき、不注意で松を切ってしまった者がいた。死罪を覚悟していたところ 殿様は「その松は余の七本の松ではない」と罪を許した。その恩情に住民は感銘を受けて、それから一層松原を大切にしたいそうである。

■虹の松原一揆

江戸時代の明和8年（1771）、唐津藩の農民漁民が虹の松原に集結し、藩に対して新税取り下げの要望をした。虹の松原内には唐津藩と天領（幕府領）の境界があり、この地の利を活かして整然と虹の松原一揆が起こった。農漁民の要望は受け入れられましたが、大庄屋の富田才治ら4名が責任を取って自首し処刑された。今でも遺徳が偲ばれている。

※（国）特別名勝 2001年NHK21世紀に残したい日本の風景百選第5位

分野	自然
地域	唐津・浜玉

◎地図・写真・統計資料など



大きく傾いた老松
（佐賀大学客員研究員 田中明氏より）

◎引用・参考文献（出典）

- ◆パンフレット 虹ノ松原/九州森林管理局 佐賀森林管理署
- ◆身近な松原散策ガイド/日本緑化センター
- ◆『海岸林をつくった人々』小田隆則
- ◆『日本の海岸林』村井宏ほか
- ◆『虹の松原』松浦文化連盟 松原の生き物百科/財団法人日本緑化センター

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts_lib/index.html